

E M 団子投入は 12 年も続きホタルの発生も！

皇居外濠の一つ牛込濠

梅雨入り間もない 6 月 8 日（金）、東京 J R 飯田橋駅近くの牛込濠に E M 団子が 1 万個投入された。主催したのは「日本橋川、神田川に整流をよみがえらせる会（林 勇理事長）」で、E M 団子の搬入から投入を手伝ったのは、都内や近県から集まった方々 20 人余り。

ここに投入される E M 団子は開始当初から埼玉県戸田市の「N P O 戸田 E M ピールネット」と茨城県取手市の「N P O 取手市緑の会」が作成と搬入を担当している。この E M 団子の作成には障がい者施設の方々が関わっていて、自立支援を両 N P O が後押ししているのも特徴だ。

この牛込濠に E M 団子を投入するきっかけは、この濠は閉鎖水域なので周囲にある桜など樹木の落葉等でヘドロが大量に堆積していた。また大雨の際、下水道に入る生活污水が処理できずに生のまま放流されるので、水質汚濁が酷くなり、特に夏場には大量のアオコが発生し悪臭が立ち込めていた。

そこで、地元の有志で結成した「日本橋川、神田川に整流をよみがえらせる会」が平成 19 年から E M を使っての水質浄化を図ってきた。この牛込濠には開始 2 年間は 6 万 6 千個投入され、平成 21 年からは毎年 2 万個ずつ投入し続けている。今年平成 30 年で 12 年目になるが、悪臭は無くなりアオコの大量発生もなくなっている。

しかし、外濠の西半部には牛込濠のすぐ上流に新見附濠、その上に市谷濠がある。この上流の濠 2 か所も浄化しなければ、効果は思うように上がらない。そこで、平成 20 年からは最上流の市谷濠に E M 活性液を週に 2 トンずつ投入していた。しかし、この濠を管理する東京都が 2020 年の東京オリンピックを見据えて、外濠浄化のために濠のヘドロを除去する工事を決めた。これに伴い、市谷濠への E M 活性液投入は中止せざるを得なくなった。ちなみに、今年、牛込濠のヘドロ浚渫は西側の半分で行われるというので、今回の E M 団子の投入は東半分への投入となった。

この牛込濠への E M 団子投入で水質浄化の成果として、ここ数年、この濠の東側にある有名なレストラン「カナルカフェ」が中心となって、ホタルを飛ばしている。ご存知のように、ホタルは水質が良くないと、育たないし飛ぶなんて絶対ない。東京都区内では椿山荘のホタル狩りが有名だが、この牛込濠も多くはないがホタルが飛び、水道橋周辺の人々の癒しに貢献している。

【取材：大山正治】



牛込濠への E M 団子投入に参加された方々



牛込濠の全長は約 600m、船に乗って投入